監視付き変換ソフト

KDauto_transPDF出力機能強化版

Kernel Computer System
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社:パッケージ販売部
〒221-0056
横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル
TEL:045-442-0500　FAX:045-442-0501
URL:https://www.kernelcomputer.co.jp

【概要】

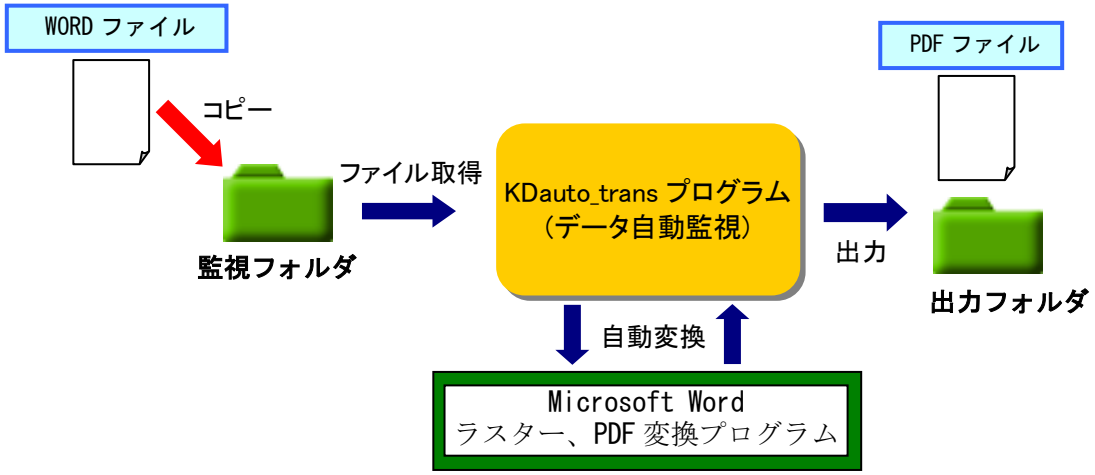
KDauto_transPDF 出力機能強化版は KDauto_trans 機能強化版に DTP ファイルを PDF ファイルに変換する機能を追加した製品となります。

KDauto_transPDF 出力機能強化版は監視フォルダを監視し、監視フォルダ内にあるファイルを対応アプリケーションと「ラスター、PDF 変換プログラム」を使用して変換を行います。変換により作成されたファイルは出力フォルダへ出力されます。

出力フォルダへ出力されたファイルに対して印刷(標準か別売)、FTP 転送を行うことができます。

これら変換、出力、印刷、FTP 転送の設定は監視フォルダ毎に指定することができます。

例. WORD ファイルを PDF ファイルに変換します。



【特長】

1. DTP ファイルを PDF ファイル変換することが可能です。(DTP ファイルを読み込めるソフトが別途必要になります。
例えば WORD ファイルなら Microsoft Office という具合になります。
PDF ファイルに変換可能な DTP ファイルの拡張子と変換に必要なソフトのバージョンは次の通りです。

DTP ファイル	バージョン	拡張子
MS-WORD	XP/2003/2007/2010/2013/2016/2019/2021/365 ※1	doc,rtf,dot,txt,docx,dotx,docm,dotm
MS-EXCEL	XP/2003/2007/2010/2013/2016/2019/2021/365 ※1	xls,xlw,xjs,csv,xlt,xlsx,xltx,xlsm,xltm
MS-PowerPoint	XP/2003/2007/2010/2013/2016/2019/2021/365 ※1	ppt,pps,pot,pptx,ppsx,potx,pptm,ppsm,potm
MS-PROJECT	2002/2003/2007/2010/2013/2016/2019	mpp,mpt
Microsoft Visio	2002/2003/2007/2010/2013/2016/2019/2021	vsd,vss,vst,vsdx,vsdm
DocuWorks(XDW)	6/7/8(8.0.3 を除く)/9/9.1※2	xdw,xbd,xct
xml,htm データ	インターネット標準ブラウザ※3	htm,html,xml
XPS データ	-	xps

※1 Office2019,Office2021,Office365,Project2019,Visio2019,Visio2021 は 64bit アプリケーションに対応しています。それ以外は 32bit アプリケーションをご利用ください。
Office 365 の対応バージョンは弊社ホームページをご覧ください。
※2 DocuWorks 入れ物(xct)を変換するには、DocuWorks 9.0.1 以降が必要です。
サブスクリプション版の DocuWorks には対応しておりません。
※3 確認済のブラウザは以下の通りです。

製品名	バージョン	備考
Internet Explorer	7/8/9/10/11	

変換結果につきましては、ご利用のブラウザの仕様に依存します。
変換でご利用になるブラウザは htm,html,xml ファイルに関連付けされている必要があります。
変換でご利用になるブラウザは起動されていない状態である必要があります。

2. KDdriver を使用して DTP ファイルを TIFF などのラスターファイルに変換することが可能です。(DTP ファイルを読み込めるソフトが別途必要になります。例えば WORD ファイルなら Microsoft Office という具合になります。)
変換可能な DTP ファイルの拡張子と変換に必要なソフトのバージョンおよび制限事項は KDauto_trans(機能強化版)の簡易マニュアルの参照をお願いします。
3. DTP ファイルを PDF ファイル(イメージ形式)に変換する場合は、PDF ファイルにパスワードによるセキュリティを設定することが可能です。パスワードは DTP ファイル名(全角文字が無いこと)か任意の文字列を使用することが可能です。
4. PDF ファイルからイメージ抽出を行い、そのイメージを変換して出力することが可能です。
イメージが無いページは白紙ページになります。一部分のみイメージの場合はイメージの部分のみ出力されます。
PDF ファイルが PDF2.0 の範囲を超える、アプリケーション独自の機能を使用している場合はイメージ抽出をすることができません。
JPXDecode(JPEG2000)のうち、拡張機能が使用されている場合は変換できません。
PDF ビューアを使用して PDF ファイルを変換する場合と PDF ファイルからイメージを抽出する場合での違いは以下のようになります。

PDF ファイルの内容	PDF ビューアから変換	イメージ抽出から変換
ベクター(文字や罫線など)データ	変換可	白紙
ラスター(イメージ)データ	変換可	変換可
ベクターラスター混在データ	変換可	ラスター部分のみ変換可
PDF ビューア	必要	不必要
PDF 上で回転・歪みのあるデータ	見た目通りに変換	見た目と異なる場合がある
カラーイメージデータをモノクロで出力する場合のディザ処理	パターンディザ	ディザなし、誤差拡散、パターンディザから選択

5. パスワードによるセキュリティが掛かっている PDF ファイルを変換する場合は、事前に解除するパスワードを設定しておくことで変換が可能になります。
6. 複数の DTP ファイルを PDF ファイルか TIFF などのラスターファイルに変換してひとつのファイルにまとめることが可能です。ラスターファイルは TIFF などのマルチページが可能なフォーマットである必要があります。
7. 監視ディレクトリ毎に PDF ファイルまたはラスターファイルの変換方法を指定することが可能です。
8. 監視ディレクトリを最大 200 個まで指定できます。
監視ディレクトリ内のファイルは日付の古い順かファイル名の昇順かコピー順でピックアップされます。
9. 監視ディレクトリはローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも指定することが可能です。
共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
10. 監視ディレクトリ毎に優先順位の設定が可能です。
優先順位の高い監視ディレクトリの処理を優先して行います。
処理している監視ディレクトリよりも優先順位の高い監視ディレクトリにファイルがコピーされると処理中のファイルの終了後に優先順位の高い監視ディレクトリのファイルを割り込ませます。優先順位の高い監視ディレクトリ内のファイルをすべて処理し終わると割り込まれた監視ディレクトリの処理を継続して行います。
使用例:通常使用する監視ディレクトリより優先度の高い監視ディレクトリを作成しておくことで通常処理に割り込んで処理を行うことができます。

11. 監視ディレクトリ毎に監視開始時間、監視終了時間、監視有効、監視無効の設定が可能です。
監視ディレクトリの監視有効、監視無効の設定はKDauto_trans実行中でも変更することが可能です。(実行中に監視無効に変更した場合は、変更前にピックアップされていたファイルについては変換処理を行います。)
12. 監視ディレクトリ以下のディレクトリにあるファイルを処理することが可能です。処理されたファイルは指定された出力先に、監視ディレクトリ以下のディレクトリ構成と同じディレクトリ構成を作成してそこに出力します。
13. 監視ディレクトリ毎に任意の出力先を指定することが可能です。
14. 出力先はローカルフォルダと共有フォルダのどちらでも指定することが可能です。
共有フォルダは読み書きが許可されている必要があります。
15. 処理後の出力ファイル名を指定することができます。
監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名＋指定拡張子、日時(YYYYMMDDHHMMSS)＋指定拡張子、日付(YYYYMMDD)＋指定拡張子、日付(YYMMDD)＋指定拡張子、時間(HHMMSS)＋指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名＋日時、日付、時間のどれかと組み合わせ＋指定拡張子から選択できます。監視ディレクトリにコピーされたファイルと同名と日時、日付、時間の間はアンダーバーかハイフンで連結します。
16. 変換処理の履歴を保存しておく履歴ファイルの生成が出来ます。実行時間や変換結果などの履歴情報の確認ができます。XMLフォーマットの履歴ファイルを作成することもできます。
17. 変換処理の内容をメールで送信することも可能です。変換処理がNGの時にのみメールを送信したり、常に結果をメール送信したりすることができます。変換処理がNGの場合は変換元ファイルをメールに添付することができます。
18. 処理後の出力ファイルを印刷することが可能です。プリンタドライバ経由(データ変換は行わない)で印刷を行います。処理後の出力ファイルが出力先プリンタで出力可能なフォーマットになっている必要があります。
弊社の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です。(印刷関連製品を組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせください。(**別売**))
弊社以外の印刷関連製品を使用して印刷することも可能です。(例えばlpr.exeなど)
使用できる印刷プログラムはコマンドプロンプト上からコマンドラインで実行可能なこと、コマンドラインの形式が「出力プログラム名 オプション 出力ファイル名」であることが条件となります。画面操作が必要なプログラムは使用できません。
19. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用してDTPファイルからラスターファイル変換以外の変換を自動処理することが可能です。殆どのKDコンバートシリーズが組み合わせ可能ですが、組み合わせることが出来ないものもあります。
(購入を考えているKDコンバートシリーズまたは購入済みのKDコンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせください。)
20. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用した変換とDTPファイルからの変換のファイルフォーマットが同じ場合は、同じファイルにまとめて出力することができます。
(購入を考えているKDコンバートシリーズまたは購入済みのKDコンバートシリーズが組み合わせ可能かどうかは弊社までお問い合わせください。)
21. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用して対になる2つの新旧ファイルを比較して比較結果を出力することが可能です。比較可能KDコンバートシリーズはHPMGHP、XDWMGXDWです。
22. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用して複数の図面サイズのファイルを指定図面サイズにレイアウトして出力することが可能です。レイアウト可能KDコンバートシリーズはHPLAYHP、RSCMP3RSです。
23. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用して大判サイズのデータを定型または任意のサイズに分割することが可能です。分割可能KDコンバートシリーズはRSDV3RS、RSDV4RS、RSDV3PSTです。
24. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)を使用して変換元データの情報を変換と同時に出力することが可能です。
情報出力可能KDコンバートシリーズはラスター変換プログラム(RS**)です。
ラスター変換プログラムではExif情報を出力します。変換元データにこれらの情報が無い場合は変換エラーとなります。
25. 弊社のKDコンバートシリーズ(別売)で使用する設定ファイルを変換ファイルに合わせて自動的に選択して変換することが可能です。変換前に任意に指定したディレクトリに、変換ファイルと同名の設定ファイル(拡張子は任意)を作成しておく必要があります。設定ファイルが存在しない場合は変換エラーとなります。
26. 監視ディレクトリにフォーマットの違うファイルがあってもフォーマットを自動認識することができます。
フォーマット認識はファイルの拡張子で行います。拡張子はフォーマット毎に最大8個まで指定できます。
フォーマット毎に使用するデータ変換プログラムと出力先のディレクトリを指定することができます。
27. 上記のフォーマットの自動認識を行う場合に、指定外の拡張子を持つファイルをエラーにするか無視するかを選択できます。無視にした場合は、そのファイルは監視ディレクトリから削除されません。
28. KDauto_transPDF出力機能強化版の環境設定はGUI画面から設定を行います。

KDコンバートシリーズとの組み合わせ例

1. KDrasterコンバート(ベクター/ラスター)を購入して組み合わせることによってDXF/DWG/HP-GL/OFI等のファイルをTIFF等のラスターファイルに変換することが可能になります。
2. KDrasterコンバート(ラスター/ラスター)を購入して組み合わせることによってTIFF,JPEG,BITMAP等のラスターファイルをTIFF,JPEG,BITMAP等のファイルに変換することが可能になります。
3. KDprintout for driver(プリンタドライバ経由の印刷)を購入して組み合わせることによって、DXF/DWG/HP-GL/HP-GL2/OFI/Rasterファイルを任意のプリンタへ印刷することが可能になります。

【機能一覧】

KDauto_transPDF 出力機能強化版の機能一覧です。

機能	コマンドライン、 常駐プログラム起動	サービス起動
DTP ファイル変換処理	○	×
PDF ファイルからイメージ抽出(※1)	○	×
監視ディレクトリ最大数	200 個	200 個
監視ディレクトリの優先順位	○	○
監視ディレクトリの開始終了	○	○
監視ディレクトリの有効無効	○	○
階層処理	○	○
出力ファイル名(※2)	○	○
履歴の作成	○	○
メール送信	○	○
プリントマネージャで印刷(※3)	○	○
任意プログラムで印刷(※4)	○	○(※5)
KD コンバートシリーズで変換(※4)	○	○(※5)
複数ファイル処理(※6)	○	○(※5)
比較処理(※7)	○	○
レイアウト処理(※8)	○	○
分割処理(※9)	○	○
ファイル情報出力(※10)	○	○
FTP 転送	○	○
環境設定を GUI で行う	○	○

※1: PDF ファイルが PDF2.0 の範囲を超える、アプリケーション独自の拡張が使用されている場合はイメージを抽出することができません。

※2: 監視ディレクトリにコピーされたファイル名＋指定拡張子、監視ディレクトリにコピーされたファイル名＋日付＋指定拡張子、日付＋指定拡張子の 3 種類が指定できます。

※3: 出力するプリンタが印刷可能なフォーマットに KD コンバートシリーズの変換処理で変換する必要があります。

※4: 別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

※5: DTP ファイルを変換・印刷する場合はサービス起動を行えません。

※6: DTP ファイルをラスターファイルまたは PDF ファイルにまとめる以外の処理を行う場合は、別途 KD コンバートシリーズを購入する必要があります。

PDF ファイルのバージョンが PDF1.7 Adobe Extension Level 8 の場合は、PDF ファイルにまとめることができません。

※7: HP-GL 同士,HP-GL/2 同士,DocuWorks 同士のファイルが比較可能です。

別途 HPMGHP(HP-GL 同士、HP-GL/2 同士)、XDWMGXDW(DocuWorks 同士)を購入する必要があります。

※8: HP-GL,HP-GL/2,ラスターファイルがレイアウト可能です。

別途 HPLAYHP(HP-GL,HP-GL/2)、RSCMP3RS(ラスター)を購入する必要があります。

※9:ラスターファイルが分割可能です。

別途 RSDV3RS、RSDV4RS、RSDV3PST を購入する必要があります。

※10:ラスターファイルが可能です。

別途ラスター変換プログラム(RS**)を購入する必要があります。

【制限事項】

- Windows の OS を長時間(数ヶ月単位)再起動せずに使用すると環境により Windows の動作が不安定になる場合があります。これは、弊社アプリケーションのみの問題ではなく、Windows を含む、利用される全てのソフト・ドライバの複合要因であり発生した場合、原因の特定及び回避は全てのアプリケーションが関係している関係で、現状では不可能です。
  長期間連続運用を行う場合、上記の問題が発生する事がありますので定期的な Windows の再起動を奨励いたします。
- Office データ変換処理に使用するアプリケーションは、Office 2019, Office 2021, Microsoft 365, Visio 2019, Visio 2021, Project 2019 は 64 ビットアプリケーションに対応しています。それら以外は 32 ビットアプリケーションのみ対応しています。
- 変換する文書ファイルに、マクロ機能やパスワードの入力等で何らかのダイアログが表示される場合には、変換処理が止まる場合があります。
- Visio2003 ファイルを変換する際、正常に変換できない場合があります。正常に変換できない場合は、一度 Visio ファイルを開きファイルメニューの印刷で印刷ダイアログを表示し、プリンタのプロパティ→詳細設定の設定を行ってから、再度変換を行ってください。
- 変換を行うマシンとは別のマシンで作成した、用紙サイズが A3 以上の Visio ファイルを変換すると分割されて出力される場合があります。
- MS-WORD のファイルは、保存されているレイアウト(印刷レイアウト／アウトライン等)で変換されます。また、印刷ダイアログの「印刷対象」の設定が「文書」以外に設定されているファイルを変換した場合は、変換を行う際の設定(「印刷対象」＝「文書」で固定)と異なるために変換結果が実際の印刷結果と異なる場合があります。
- MS-Office2003 以降で作成されたアクセス制限が設定されたファイルを変換することはできません。
- DocuWorks 入れ物(xct)を変換するには、DocuWorks 9.0.1 以降が必要です。
- DTP ファイルからラスターファイルへ変換時の制限事項は KDauto_trans(機能強化版)の簡易マニュアルの参照をお願いします。

【自動起動】

1. スタートアップに登録することでログイン後に自動起動することができます。
2. サービスに登録することでマシン起動後、ログオフ状態で自動起動することができます。
   (DTP ファイル(WORD,EXCEL,PDF など)を変換するような場合には使用できません。)
3. サービス登録以外の方法でログオフ状態の自動起動には対応していません。

【対応 OS】

Windows 7

Windows 8

Windows 8.1

Windows 10

Windows 11

Windows Server 2008

Windows Server 2008 R2

Windows Server 2012

Windows Server 2012 R2

Windows Server 2016

Windows Server 2019

Windows Server 2022

【価格】

KDauto_trans(PDF 出力機能強化版)　　:40 万円(税抜き)

※KDauto_transPDF 出力機能強化版には KDdriver_long(PDF) for Windows が付属されています。